

「土器川における水害に強いまちづくり検討」
～～ 第 3 回 水害に強いまちづくりワークショップ開催報告（速報） ～～

1. 「水害に強いまちづくりワークショップ」の実施方針

近年、地球温暖化などの気候変動により豪雨等の発生頻度が高くなっている傾向にある。これにより、計画規模を上回る洪水（超過洪水）が発生する恐れが高まっている。

本検討は、「香川地域継続検討協議会」と連携し、土器川で大規模河川氾濫が発生した際の被害想定や対策等及び「水災害に適応した強靱な社会」作りに向けた検討を行うものである。

そのため、土器川氾濫地域の関係機関がメンバーとなり、平成 25 年度の「大規模水災害に適応した対策検討会」に引き続き、平成 26 年度に「水害に強いまちづくり検討会」を設置するとともに、平成 27 年度は、土器川下流部の検討対象モデル地区の住民が集まり、意見交換の場として「水害に強いまちづくりワークショップ」を開催するものである。

ワークショップは全 3 回を予定し、各ワークショップにおけるテーマに関する議論を経て、住民意見の集約を行う。

2. 第 3 回 水害に強いまちづくりワークショップ開催概要

- | | |
|------------------|--------------------------------------|
| (1) 開催日時 | : 平成 27 年 12 月 19 日（土）14:00～16:30 |
| (2) 開催場所 | : 丸亀市民会館 中ホール |
| (3) プログラム | : 別紙－1 参照 |
| (4) ワークショップテーブル数 | : 5 テーブル（属性別） 別紙－2 参照 |
| (5) 参加者 | : 計 42 名（地域住民 28 名、進行者等 14 名）、欠席 7 名 |

土器川における堤防決壊を伴う大規模水害をケーススタディとして、土器川下流部右岸の土器町地区を検討対象モデル地区とし、台風接近～堤防決壊直前までの水害発生危険性が增大している場面を想定して、地域住民の避難の目安に基づくタイムライン（避難行動）の素案に関する多くの意見を抽出した。

- (1) 大規模水害の想定外力：戦後最大 H16.10 洪水規模の約 2 倍
(基本高水 1/100 確率計画降雨の 1.2 倍に相当)
- (2) モデル地区の浸水区域：土器川右岸 3.2k 堤防決壊をイメージし、内水氾濫、土砂災害の複合災害を想定
- (3) 第 3 回ワークショップテーマ：“水害に強いまちづくり”のための
住民タイムライン作成と重点対策
～私たちが出来ることから、始めよう～
- (4) ワークショップでの検討内容：
 - ① 住民タイムライン（素案）の検討：内容を確認し修正
 - ② 共助による重点対策の具体的な取り組み検討
：重点対策の展開のために必要なこと（準備・活動内容のアイデア出し）

「土器川における水害に強いまちづくり検討会」 第3回ワークショップ

開催日時：平成27年12月19日（土）14：00～16：30

開催場所：丸亀市市民会館 中ホール（2階）

プログラム

時間 (目安)	内容	備考
14:00 5分	◇1. はじめに ・会長代理挨拶（香川大学危機管理研究センター 副センター長） ・本日の予定（ファシリテータ）	事務局進行
14:05 10分	◇2. 情報の共有 2-1 第2回ワークショップのふり返り 2-2 質疑	ファシリテータ進行
14:15 25分	◇3. ワークショップ検討 ＜検討テーマ＞：“水害に強いまちづくり”のための 住民タイムライン作成と重点対策 ～私たちで出来ることから、始めよう～ 3-1 概要説明 ・ワークショップ検討の進め方と成果 ・災害警戒期の住民タイムライン（素案）の説明 ・チェックイン（各テーブル）	ファシリテータ進行
14:40 40分	3-2 検討－1【住民タイムライン（素案）の検討】 ・検討の内容：住民タイムライン（素案）の確認と修正 ・検討の方法：タイムラインシートに記入、意見カードに記入	テーブル進行
15:20 10分	＜休憩＞	
15:30 35分	3-3 検討－2【共助による重点対策の具体的な取り組み検討】 ・検討の内容：重点対策5項目から1項目を検討 重点対策を展開するために必要なこと（準備・活動内容をアイデア出し） ・検討の方法：意見カードに記入、意見カードの分類	テーブル進行
16:05 20分	3-4 全体ふり返り ・テーブル発表 ・本日のまとめ ・チェックアウト（各テーブル）	ファシリテータ進行
16:25 5分 16:30	◇4. おわりに ・今後の予定 ・丸亀市挨拶 ・主催者閉会挨拶（香川河川国道事務所長）	事務局進行

【受付配布資料】

※ : 各テーブルで作業する項目

- ・プログラム及び配席図
- ・資料－1 情報共有資料
- ・資料－2 ワークショップ実施資料

【参考資料】※ワークショップ終了時に配布します。

- ・参考資料－1 情報共有ツール「土器川大規模水害情報」
- ・参考資料－2 土器川における水害に強いまちづくりワークショップ概要
- ・参考資料－3 参加アルバム

ワークショップテーブル参加者構成

テーブル番号	属性	ワークショップ 参加者人数	
テーブル1	自治会長	参加者 : 7名 進行者等 : 3名	計10名 (内欠席3名)
テーブル2	自主防災会、コミュニティ役員、元消防士 等	参加者 : 6名 進行者等 : 4名	計10名 (内欠席2名)
テーブル3	小学校PTA会長、婦人防火クラブ、民生委員 等	参加者 : 7名 進行者等 : 3名	計10名 (内欠席1名)
テーブル4	コミュニティ会長、幼稚園PTA、自治会員 等	参加者 : 6名 進行者等 : 4名	計10名
テーブル5	丸亀市民病院、 地元企業代表者 等	参加者 : 6名 進行者等 : 3名	計9名 (内欠席1名)
			合計49名 (内欠席7名)

注1) ワークショップ参加者は、検討対象モデル地区内にお住まい、勤務の住民を対象とした。

注2) 「進行者等」は、進行者、記録者、補助者の3～4名である。



会長挨拶



会場の様子



ファシリテータによる進行



タイムライン（素案）の検討



タイムライン（素案）の検討



重点対策（共助）の検討



テーブル発表の様子

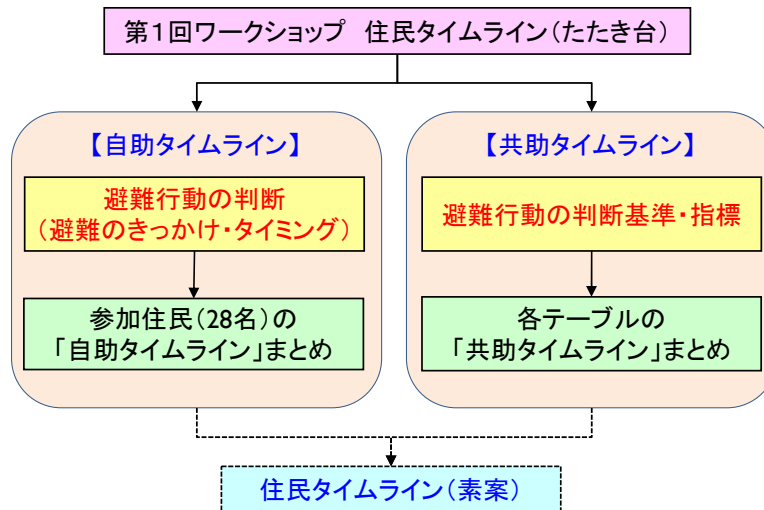


テーブル発表の様子

3. ワークショップ実施の状況

3.1 土器川モデル地区（土器町東・北）における住民タイムライン（素案）の確認

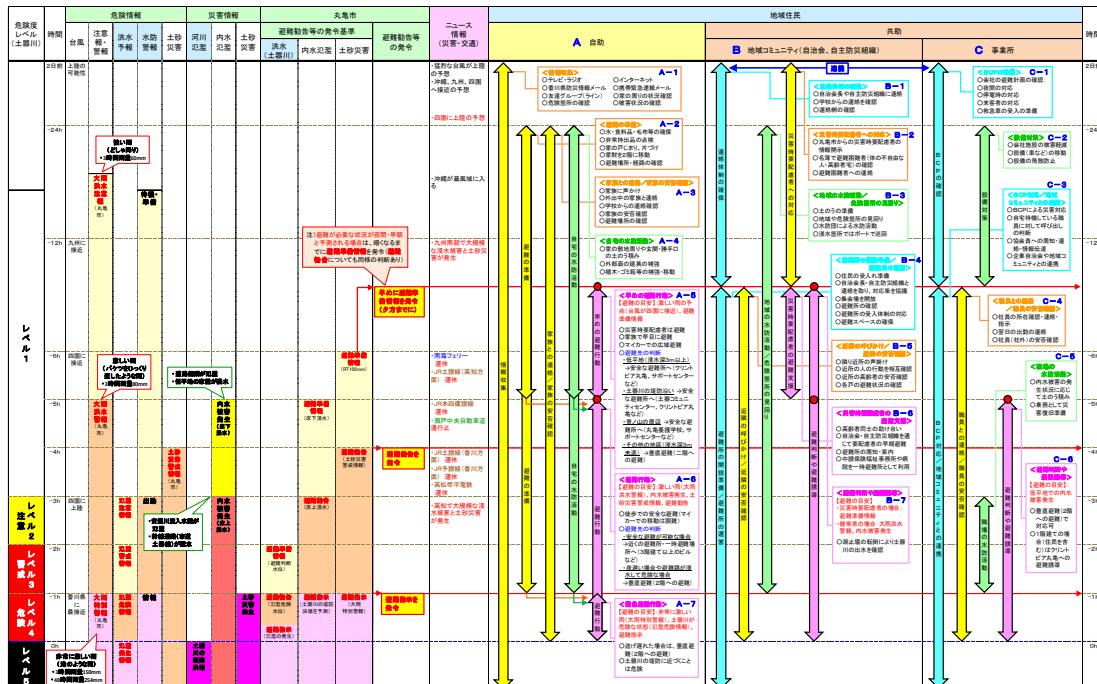
第1回および第2回ワークショップにおける参加住民の意見や自助・共助タイムライン検討結果をとりまとめた「住民タイムライン（素案）」について、避難行動のきっかけやタイミング、必要な情報等をテーブル毎に共有し、住民タイムライン（素案）の内容を再確認した。



住民タイムライン（素案）の作成の流れ

土器川モデル地区（土器町東・北）における住民タイムライン（素案）

※ 第1回・第2回ワークショップにおける参加者からの意見を集約し、自助・共助のタイムラインを並記してとりまとめたもの



土器川モデル地区（土器町東・北）における住民タイムライン（素案）

3.2 検討－1【住民タイムライン（素案）の検討】

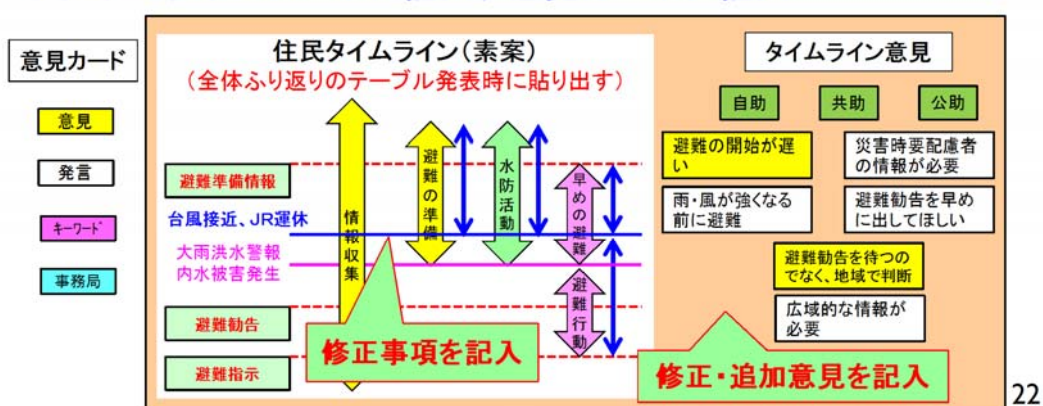
参加住民の検討結果や意見に基づき作成した「住民タイムライン（素案）」に関して、タイムラインを考える上での留意点を共有し、自助・共助の防災行動が適切であるか、問題点や課題等を意見カードに記入し、意見を分類した。

【検討－1】住民タイムライン（素案）の検討

～“**早めの安全な避難**”を意識した防災行動を
もう一度、考えてみましょう～

- ①時間軸に沿って、自助・共助の防災行動をイメージする
- ②自分の住まいや職場を基準にして、“避難の目安(避難のきっかけ・タイミング、判断基準・指標)”が適切かを考える

◆タイムラインシートに記入、意見カードに記入



検討－1の概要

タイムラインを考える上での留意点(再確認)

【土器川の河川特性およびモデル地区の災害特性】

- ・土器川は、急流河川であり、**水位上昇が非常に早い**。
- ・低平地では3m以上の浸水、土器川堤防沿いでは家屋倒壊、青ノ山周辺では土砂災害が発生する危険性がある。

【避難の目安(避難のきっかけ、タイミング)】

- ・大規模な水害は、土器川流域でも起こり得るとの危機意識を持ち、**最悪の事態を想定**して、防災行動を考える。
- ・土器川の堤防決壊場所や時刻はわからないため、堤防決壊時刻からの**逆算**はできない。
- ・“リアルタイムで得られる情報(①**気象情報や交通途絶情報の広域的な情報**、②**土器川水位や内水被害の身近な情報**)”をもとに判断する。

【土器町東・北の地域特性を踏まえた避難行動】

- ・“**命と財産を守るための早めの避難行動**”が必要。
- ・特に、“**マイカーでの避難**”は、道路の浸水や渋滞により避難所にたどり着けない危険性があるため、“**早めの避難行動**”が必要。
(事例)鬼怒川の堤防決壊時にも、道路が渋滞し、避難所にたどり着けず

3.3 検討—2【共助による重点対策の具体的な取り組み検討】

地域コミュニティにおける共助の充実に向けて、第2回ワークショップ意見で得られた重点対策5項目の中から1項目をテーブル毎に検討した。重点対策項目の展開に必要なアイデア等を意見カードに記入し、意見を分類した。

【検討—2】共助による重点対策の具体的な取り組み検討

～各テーブルで、重点対策を検討します～

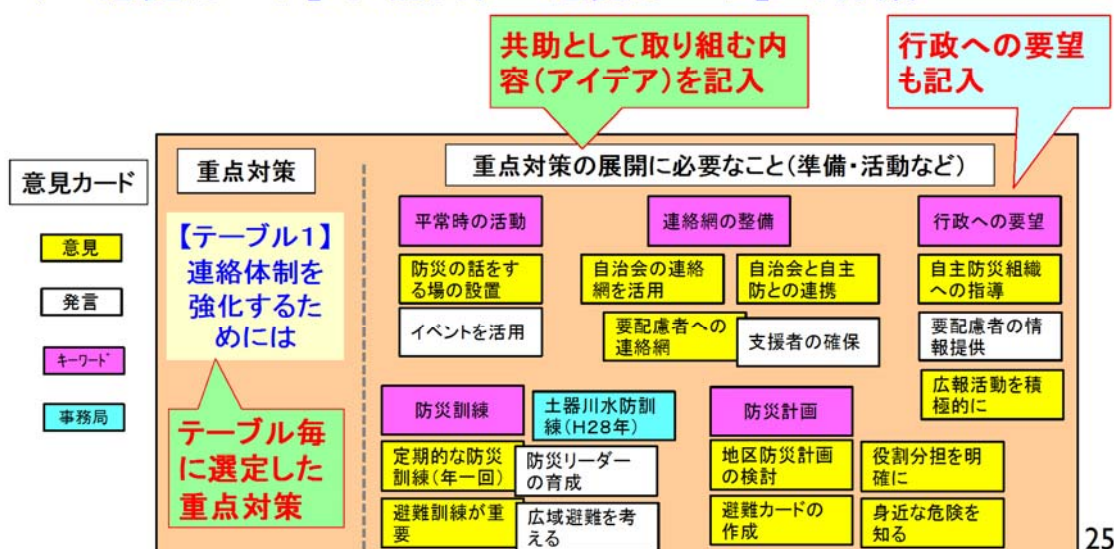
- ・第2回ワークショップの意見を踏まえて、重点対策5項目の中から、テーブル毎に1項目を検討(あらかじめ事務局にて選択)

テーブル	重点対策5項目 (共助による取り組みが必要な5項目)	意見が出た テーブル
1	災害時要配慮者の避難支援・誘導を行うには	1, 3, 4
2	地域コミュニティを活性化するためには	2, 3
3	避難所の開設準備や運営で支援できることは	1, 2, 3, 4
4	地域コミュニティ(自治会・自主防災組織)内の連絡体制を強化するためには	1, 2, 3, 4
5	事業所としての地域支援の具体策は	5

24

～“重点対策”を展開するために必要なこと(準備・活動など)を考えてみましょう～

◆「意見カード」に記入、「意見カード」の分類



25

検討—2の概要

＜検討の感想（各テーブルによる発表概要）＞

テーブル	ワークショップ検討の感想
1	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防決壊を前提とした検討であるため、とにかく早く非難するに尽きるし、土器川の水位情報等が重要となるが、判断に使用するのには難しい。 ・避難場所としては、自宅から近いところがよい。 ・重点対策（災害時要配慮者の避難支援・誘導）では、要配慮者とは誰が該当するのか難しいが、自治会単位で把握し、本人に事前に情報を提供し、いざとなったら一緒に行動するのが良い。（ただし、避難勧告前に行動してくれるか難しい）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・土器コミュニティで先日防災訓練があったが、サイレンが聞こえない現状があり、情報伝達が重要である。 ・共助では、自分が避難しないのに要配慮者に避難するよう伝えるのは難しいため、一緒に避難することが必要である。 ・重点対策（コミュニティの活性化）では、メディアを活用して、コミュニティの取り組みを周知し、加入率を上げるアイデアがあった。 ・自治会との連携等の横のつながりの強化が必要との意見があった。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・安全キットが高齢者しか丸亀市から配布されていないが全戸配布が良いし、情報を得るためにはラジオ以外の手段を考えた方がいい。 ・行政は空振りでもいいので早めの避難情報を出すべきであり、持出し品のわかるパンフレットがあればよい。 ・重点対策（避難所の開設準備や運営）では、自治会の連絡網の平常時からの充実、避難訓練の実施と参加者の向上が大切である。 ・避難所運営では、体力のある方や女性等の自分ができる事への協力が必要との意見があった。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連絡など早めの情報がほしく、避難準備情報での避難が有効との意見があった。 ・共助では、近隣の高齢者と避難が考えられるが、個人情報保護の点から情報把握を普段から考えていかないといけない。 ・公助では、連絡網の強化が必要であるが、土器コミュニティで大勢の避難者を受け入れられるのか問題がある。 ・重点対策（連絡体制を強化）では、自治会未加入者が5割強あり、連合自治会も3割程度であるため、横のつながりが図りにくい。 ・土器地区への一斉メールの意見もあったが、現実的には難しい。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムライン素案では、避難タイミング等の確認ができた。 ・事業継続しながらも被災企業でもあるため、地域支援へは事前の準備が大切である。（例えば、土のうの提供等） ・余力があれば、プラスアルファとしての支援（避難所提供、車両提供等）が可能であるかもしれない。 ・企業団体として全社が登録しているわけではないため、情報共有・提供して入会を促していきたい。 ・丸亀病院としては緊急避難的な対応ができるかと思う。また、病院グラウンドは防災ヘリの発着地でもあり支援ができるかと思う。